

地域アゴラ実験室

さあ、集まって はじめよう!

地域アゴラとは?

「アゴラ」とは、古代ギリシャで人々がなんとなく集まって、それぞれの思いを聞きながら、みんながもっと幸せになるように、

共に考え、共に行動した、はじまりの場所。

あなたの地域でも、みんなで考えてみんなで動く

そんな場をはじめてみませんか?

こんなシーンでやってみませんか?

考えていることが違いそうな人たちと、何かいっしょにやるかもしれないとき。

例えば…

イベント、ルールを決める、家族の晩ごはんのメニュー、まちづくりなど



ふだん、あまり気軽にしゃべることがないひとたちで、話してみると。

例えば…

知らない人同士、先生と親、役所の人とまちの人など



ちょっとさみしいな、安心しておしゃべりしたいな、と思ったとき。

例えば…

地域の居場所、フリースクール、学校の放課後、職場での交流など



やってみるとうれしい効果があります

自分とはちがうことを考えている人と、話しやすい。

全員が、自分は大事にされていると感じて、嬉しい気持ちになる。

そこにいるみんなで、みんなが幸せになるよう、何かやりはじめる。

【発起人】

奥村 裕一

(一社)オープン・ガバナンス・ネットワーク代表理事/元東京大学公共政策大学院客員教授



人と人が響き合い、照らし合う時間。この小さな円が、やがて地域全体がともに生きる場になります。

わたしたちも応援しています!



左: 宇野 重規



中: 神原 咲子



右: 庄司 昌彦

東京大学社会科学研究所教授
神戸市看護大学看護学部教授
武蔵大学社会学部教授



さあ、みんなで地域アゴラをはじめよう！

ポイント

- ・その場では名前や肩書や年齢など、伝えない、考えない。
- ・参加しない人が、その場にいないようにする。
- ・他の人ではなく、自分のきもちに集中する。
- ・みんなで未来を、考える。
- ・みんなで、一緒に何かちょっと行動したり、変えたりしてみる。

準備

「はずす」

- ・名札に、その日呼ばれたいニックネームを書く。
- ・最大5人くらいがおすすです。全員、円になって座る。
- ・全員の真ん中に紙を1枚置き、1人1本ペンを用意する。
- ・名前や肩書や年齢を忘れるしかけを使って話しやすい空気をつくる。

※しかけの例:色紙でどうぶつ帽子をつくる、みんな大きなたけひげをする、など
※紙はなんでもいいですが、大きい方がやりやすいです。

STEP

1

「掘る」

- ・最近感動したことを、それぞれ思い出す。
- ・次に、「なぜ、自分はそれに感動したんだろう?」「そこには、どんな自分があるんだろう?」と考えてみる。
- ・出会った「こんな自分」のキーワードを、真ん中の紙の自分の近くにメモしておく。

夕陽の美しさに感動したら、なぜ美しかったかではなく、「なぜ自分はきれいな夕陽に感動したんだろう?」「それってどんな自分?」「何が好きな自分?」…と、自分の内側に集中するイメージです



STEP

2

「響きあう」

- ・最近感動したこと、その理由をひとりずつ、じっくり話す。
- ・聞いている間に「わかる!」「私も似た経験がある」と思ったら、真ん中の紙に自由に書き出す。
- ・全員が話し終えたら、紙に書いた「思い出したこと」や「共感したこと」をもとに、自由に語り合う。

※聞いている人は、話の途中で、「それ私もある!あのね、」と、話どろぼうをしないように
※ゆっくり、どうぞ。最初はだいたい1人何分か決めておくと、みんなが同じくらい話せます

STEP

3

「見つける」

- ・場のテーマについて、その場の2人以上がもっと幸せになるアイデアを、考えてみる。
- ・真ん中の紙を使って、「どの人とどの人」か線を結んで、出てきた言葉やアイデアを、絵や文字で書いてみる。
- ・最後は、全員が何か少しでもっと幸せになることを考えて、絵や文字に記して、花丸をつけておく。

STEP

4

「動く」

- ・全員がもっと幸せになることについて、「自分がひょっとしたらやれるかもしれないこと」を考えて、花丸のそばにそれぞれ書く。(もちろん、よかったら本当にやってみてくださいね)
- ・全員が書き終わったら、しばらく、気がすむまでおしゃべりをする。

